

平成24年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク
《 パネルディスカッション 》

■パネルディスカッション

コーディネーター：東北公益大学名誉教授

NPO法人酒田みなとまちづくり市民会議 理事長 高橋英彦

パネリスト：酒田市長 阿部寿一

〃 酒田青年会議所 理事長 白旗夏生

〃 NPO法人酒田港女みなと会議 理事長 小山恵子

〃 NPO法人元気王国 理事長 佐藤香奈子

(酒田商工会議所青年部会長)

テーマ：酒田のにぎわいの創出と港の活性化について



高橋 皆様、改めましてよろしくお願ひいたします。私は東京から酒田に移住して12年になります。東京に生まれ育ち、先ほど裏日本という言葉がありました。よく思い出してみると子どもの頃、高齢者からは日本海側を裏日本と聞かされていきました。そして日本海は非常に遠い場所だと思っていました。しかも小説などで描かれる日本海はたいへん暗い。そのため、暗いところというイメージも持っていました。海といえば湘南、港といえば横浜でした。ところが若い頃、次第に日本海という土地にロマンを感じるようになったんです。現在でも、首都圏の皆さんは日本海側にロマンを感じています。ただし、あまり明るいロマンではない。

しかし、実際に自分が12年酒田に暮らしてみると、みなさん非常に明るいんですね。先ほどの昆さんや佐藤香奈子さんの話を聞いても分かるように本当に明るい。私は酒田に暮らし、日本

海側の様々な土地を訪れましたが、どこに行っても明るいです。首都圏はじめ太平洋側の皆さんが日本海側に抱くほの暗いロマンを、明るいロマンに変えていきたいとしみじみと感じております。などと話している間にも時間が経ってしまいますね。主催者から時間は守るようにと言われておりますので、パネリストのみなさんの話に移りたいと思います。

まず、今、行っているそれぞれの活動と、地域、ひいては日本海側の展望を、今後の夢を含めて語っていただきたい。パネリストのみなさんの年齢は分かりませんが、若い順で語ってください。ではまず白旗さん。

白旗 改めまして、社団法人酒田青年会議所理事長を仰せつかっております白旗夏生と申します。よろしくお願いたします。我々酒田青年会議所は、主に町づくり、人づくりの事業を行っております。今年の事業で、港活性化に特化した事業は今のところ予定しておりません。最も近いもので、25年間ずっと事業を続けている、夕日ラインシンポジウムかと考えました。これは日沿道、道路をつなぐシンポジウムの協議会です。港の本質はやはり物流かと思います。ですが、港に物資がついても、その後道路がなければどこにも運べません。陸路と海路、両方の整備が港の活性化には必要だと考えております。今年3月17日に、第24回日本海夕日ラインシンポジウムを開催しました。今年は遊佐町を会場に、遊佐町長、国土交通省ツシマ政務官、高速道路のあり方方識者検討委員会オオタ先生、鳥海山「SEA TO SUMMIT」実行委員会実行委員長佐藤香奈子さんでパネルディスカッションを開催しました。遊佐町に高速道路が通ることによって遊佐町はどうなるのか。道路が来ても町の繁栄が約束されたわけではありません。遊佐町が通り過ぎるだけの場所になってしまうのではないかと遊佐町民も危機感を抱いています。遊佐町の今後のあり方を、町民のみなさんと共有できた事業となりました。酒田は港もあり、日沿道もつながることがほぼ確定しています。この状況で、我々酒田青年会議所として、酒田のあり方、今後の未来像を共有できる事業を行っていきたくて持っています。以上です。

高橋 ありがとうございます。では香奈子さん、お願いします。

佐藤 はい、2番目に若い佐藤香奈子です。先ほどの事例発表では、にぎわいの創出に特化してお話しさせていただきました。現在、商工会議所青年部会長を今年来年と2年間務めております。私どもは連携軸事業として、太平洋と日本海をつなぐ最短ルートの道路の促進を目的とした事業、ウエストラインを活動の基軸のひとつにしています。ウエストは西の意ではなく、人間の一番細かい部分という意味のウエストです。石巻、古川（大崎市）、新庄、酒田の4地区で親睦を深めることを目的としています。具体的には子どもたちのサッカー大会を4地区持ち回りで開催しています。子どもたちが、各都市へウエストラインという道路を通して訪れるきっかけづくり。ひいては東北という大きな地区を俯瞰して観ることができる人間を育て、地区同士の強い連携関係も育てていきたいという思いで活動しています。サッカー大会は今年で14回目となり、酒田で開催されます。先日石巻でウエストラインをテーマにしたシンポジウムが開催されました。まだ震災の爪痕が色濃く残っているなかで、それでも元気に活動している姿を目の当たりにし、私たちも励まされました。大震災を受け、酒田港は太平洋への物流の起点、ライフラインの起点、代替港として活躍しました。次は代替港ではなく、酒田港が主役となることを目指しながら、石巻をはじめとした太平洋側の港を牽引していきたい。そう考え、ウエストラインの活動を続けています。

以上です。

高橋 質問ですが、ウエストラインとは、実際の道路を軸とした活動なんですね。

佐藤 そうです。私が青年部に入った頃にはすでに4都市の連携軸ができていました。実際の道路で結ばれた4つの都市が協力し合い、高規格道路の建設を目指す運動です。

高橋 確かに考えてみると、北前船で栄えた港というのはいずれも大きな川があった。酒田でいえば最上川、秋田県では雄物川など。舟運と海運のドッキングができた土地ですね。現代では、舟運の代わりに道路です。白旗さん、佐藤さんの話はそのような内容でした。日本海沿岸と太平洋側を比べると、日本海側の道路の悩みはまだまだ大きい。いろいろな方の努力によって、一昔前に比べれば解決の方向に進んでいますが、それでもまだ時間が必要でしょう。若い方を中心に、道路開通に向けて努力を続けていただき、昔の舟運に勝るとも劣らない道路網を築いていただきたいと思います。

では次に小山さんお願いします。

小山 NPO 法人酒田港女みなと会議の小山と申します。私たちは平成10年から活動を始め、今年1月にNPO 法人として再出発いたしました。港は貿易が主ですから、なかなか女性が入り込む隙はございません。あえて女性の立場で酒田港を見つめ、考え、住民に開かれた港にすることを目的に活動しています。港関係の女性の団体は全国にありますが、私たちのように、県内内陸地方、つまり港のない地区からも集まっている団体というのは多くありません。酒田港は古くからの港であり、現在は県の重要港湾ですが、内陸に住む人たちは同じ県内に港があるということをあまり知りません。生まれてから一度も酒田港を見たことがない県民もいます。私たちが活動を開始して最初に行ったことは、山形市にある文翔館を会場にした「山形に酒田港がやってくる」というイベントでした。ゲストを招いての講演、酒田港から水揚げされた海の幸の振る舞い、そして子どもたちに未来の港の絵を描いてもらうコンクールを実施しました。特にこの絵のコンクールが元となって、「発見酒田港探検隊」という企画を、何年かにわたって開催いたしました。このエピソードをお話いたします。港の絵を子どもたちから集めたところ、港を見たことがない子どもたちは港の絵を描きませんでした。更に、酒田市で表彰式を行った際に、一人の子どもの表彰に対し、祖父母も含めて家族全員が酒田に訪れてくれました。これを見て「これだ！」と思いました。子どもの目を通して大人にも酒田港を見てもらうために「発見酒田港探検隊」を開催しました。当初は安全面も考慮し親子での参加を条件に参加者を募りました。近年は親子という枠ではなく、保護者という立場に変え、祖父母と一緒に参加できるようにしました。また、当初は小学校高学年を対象に実施しておりましたが、小学生だけでなく中学生も参加したいという声もあります。発想が大きく転換する時期の子どもたちに海の楽しさを体験してもらうために実施していたため、港から港町を巡るコースとなっていました。前回からは、コースを少し変更し、保護者が酒田の料亭文化や映画「おくりびと」の撮影地を楽しめるようになりました。単なる子ども向けの企画ではなく、老若男女楽しめる企画となるよう、少しずつ発展を続けています。

話は変わりますが、7年ほど前に酒田港長期構想という計画が出されました。その分科会の一つ、親水部会で「みなとオアシス」が計画に挙がりました。酒田港本港地区を中心に、楽しい港

にしたいということで、海洋センターを軸に、海鮮市場の計画。そして山居倉庫から日和山公園まで歩いてもらう企画を練りました。酒田には歴史的な財産が多く現存していますが、それを網羅できるようルートを考えました。酒田の玄関口はもともと港だったという背景を知っていただきたいと考えながら、みなとオアシス祭りを開催してきました。年々パワーアップしています。今年は今月開催されますので、ぜひご参加ください。

長々と申し訳ありませんが、合わせて酒田港の現状をお話しさせてください。酒田港は一昨年8月、国の重要港湾に指定されました。昨年は日本海拠点都市港リサイクルポートとして指定を受けております。リサイクルの貨物量は、平成14年を基準にしたとき、現在約2.5倍に増えています。指定を受けた後、企業の数も13社増え、現在は20社になっております。今後ますます伸びるでしょう。韓国釜山、中国天津へのコンテナ事業も始まりました。中国とロシアの合意で、2国の中間に位置する羅津（ラジン）港も新しく日本と交易できる港となりました。羅津港は、酒田港から近い。酒田港の国際コンテナの扱い量は、昨年は大震災の影響もあり、過去最高の1万346TEUになりました。先日県知事から、酒田港にもう一基ガントリークレーンを増やさなければならないかもしれないという言葉もいただきました。これからの北前構想は、日本海を結ぶことも重要ですが、対アジアを見越した構想が必要になると考えます。そのためには、ウエストライン等の太平洋側への道路もますます重要になります。未来は明るいと感じています。酒田港のますますの発展に、私たちも協力していきたいと考えています。

高橋 ありがとうございます。女みなと会議というのはまず名前からしてユニークですよ。私もたびたびおつきあいがありますが、酒田港、ひいては酒田市を広く県民に認識していただくことを目的に活動されています。地域の認識は、酒田港、港町酒田の発展に大きく影響します。いま3名から、酒田港のいろいろな課題を含めての考えを発言していただきました。阿部市長から、今までの話を踏まえううえで、考えをお伺いしたいと思います。

阿部 酒田港が近年で一番にぎわったのは、共同火力ができて、住軽アルミという企業が立地した頃だと言えます。人口も伸びました。しかしその後、電力不況がおき住軽アルミが撤退した。更には酒田大火が追い打ちとなり、とても勢いが落ち込んだ時期があった。産業も「重厚長大」から精密機械や電子部品が中心となっていった。私が市長となった十数年前というのはその時期で、港の持つ意味が変質しつつある時期でした。私は固定観念を捨てようと考えました。港が重要港湾に指定されたからといって利用客が増えるわけではない。特色を出さなければならない。だからこそ、国土交通省がリサイクルポートという話を出してきたとき、真っ先に手を上げました。リサイクルというのは、人によってはゴミを扱っているように見えるかもしれませんが、しかし、環境産業に奉仕すると考えれば、決して悪いことではない。リサイクルという付加価値をつけることで、酒田港の魅力をアップさせようと考えました。今でこそあまり抵抗はないでしょうが、いままでの物流拠点としての港を考えれば、リサイクルポートという役割を果たすことに抵抗を感じる方もいたでしょう。それでも切り込んで推進してきたつもりです。現在では、日本海側では北九州と並び称せられるといえ大げさですが、酒田港のがんばりを認めてくださる方も多くいらっしゃいます。

もう一つ、他の港には海産物の直売所が早くから設けられていましたが、酒田港には当時いっさい無かった。酒田でそれまで直売所がなかったのは、いろんな理由があります。大火復興が最

優先だったために、なかなか観光まで手が回らなかったというのもあります。酒田港の海鮮物直売所の計画が具体的になった時期は、折しも市街地の活性化が叫ばれた時期でしたから、国から補助をいっぱいもらってきて「海鮮市場」をつくりました。最初の頃は出店してくれる人も少なかったものの、成功し始めたら出店希望者が増えた。そこで次に「みなと市場」をつくった。すると、「海鮮市場」と「みなと市場」が切磋琢磨しあい、両方よくなった。港が親水空間であるという考えはしきりに叫ばれていましたが、酒田港ではそれまであまり熱心に取り組んでこなかった。そこに目を向けたことで、酒田のいろいろなお店ががんばってくれるようになった。同時に、香奈子さんや小山さん、白旗さんたちのソフト面の動きが発展を加速させてくれた。いつも感謝しております。

もう一つ、私が意外に思ったのが、国交省です。港の担当技術官というのは、工事はともかく商売には詳しくないのかと思えば、みなさん商売人の考えを持っていた。現場がそうならば、自分も掛け声を発するだけでなくデータに強くならなければならないと痛切に感じています。数字をしっかり押さえながらがんばっていかねばならないと思う。

山形県の熊坂所長さんも数字にはなかなかうるさい方です。それが本当にありがたいと思う。というのも、酒田港の弱点は何だ、データをみると片荷だとずばり指摘してくれる。輸入は強いけど輸出が弱い、だからコンテナの価格も高くなるし、便数の利便性も上がらない、片荷構造をどうやって改善するべきか。それから県内の企業が酒田港を使う率が、隣の秋田港と比べると非常に少ない。これはどうすればいいのか。数字を見ながら問題点の原因追及をしてきました。まだ十分な成果はあげられていませんが、これからも努力していきます。

東日本大震災は大変不幸な出来事でしたが、酒田港にとって幸いだったのは、酒田港が広く認知されたことでした。太平洋側の復興とともに、酒田港の取り扱い荷量が若干は減り加減にありますが、大きく減ったということはない。これをチャンスととらえ、原点に戻って、日本海側の東北の玄関口として、物流の拠点にも大きく名乗りを上げられるようこれからがんばっていきたいというのが、夢であります。以上です。

高橋 ありがとうございます。港の全体像を示したのはやはり行政かと思います。特にリサイクルポートの指定。これに対する市や地域の方の尽力は、酒田市民にとってもありがたかったと思っています。というのも、世界規模で考えたとき、港は何らかの特色がなければ生き残っていけないと思うんですね。その中で、酒田港はリサイクルポートという特色を手にいれ、大きく前進した。いくらその昔北前船で栄えた港といっても、それだけでは今後生きていけない。それからもう一つ、「さかた海鮮市場」は、会場のみなさんも行ったことがあるかと思います。明日は休日ですし、大変にぎわうことでしょう。ただ、私がいつも思いますのは、海鮮市場の横に海洋センターという海洋博物館がございます。観光で酒田を訪れる方が、博物館よりもおいしい食事に心奪われるのは当然ではありますが、理想としては海洋センターに来た人がついでに海鮮市場で食べるという形だと思っていますので、ご一考いただければ。

それはそれとして、今みなさんからお話を伺いましたが、港町というのはさまざまな資源があり、可能性がある。可能性は、物流という可能性もあり、にぎわい創出という可能性もあります。次は、今日が日本海にぎわい交流海道ネットワーク総会の記念行事という場でもありますので、「にぎわい」をテーマに伺っていきたいと思います。にぎわいには地域の人たちによるにぎわいもありますが、やはり観光ということが大きなウエイトを占めると思います。港は観光資源です

し、子どもたち、若い人たちにもっと港に関心を持ってもらいたい。私の幼い頃は「海は広いな 大きいな・行ってみたいな・よその国」と童謡で歌い、海、そして船に思いをはせました。現在は外国に行くのは飛行機で行くようになりましたが、いまでも海というのは外につながるイメージを含有していると思います。港酒田の観光振興について、みなさんからご意見をいただきます。

佐藤 今、東京マラソンが有名になり、スポーツと観光のコラボ、スポーツイベントが観光になるというモデルケースを作りました。日本のスポーツイベントの形を変えたと感じています。酒田シティマラソンも、東京マラソンがなければ警察は認可してくれなかったと思っています。東京マラソンを発端に、大阪、京都、仙台などの大都市圏で大規模な都市型マラソンを開催している。酒田だけは不可能とはいえない状況となった。コースを認可する立場である警察の姿勢も、これまでは頭からすべて否定してきていたのが、「このように変更すれば可能」というアドバイス型に変わってきています。

酒田の港の誇りの一つに、豪華客船飛鳥が毎年入港することがあると思っています。入港した飛鳥を間近で見ると、何ともいえない高揚感を感じます。ただ、入港するのがリサイクルポートの方なので、なかなか市民の目に止まらないのが残念です。無知を承知で発言させていただくのですが、本港には飛鳥は入れないのでしょうか？掘れば何とかなる？ならないですかね。というのも、乗ってきた人も迎える私たちも一緒に楽しめるような企画ができればいいと思うんです。乗客がそれぞればらばらに酒田観光をするだけでなく、例えば一緒にグランドゴルフをすとか。交流と楽しみ、そして長期の航行でしょうから健康づくりとを兼ね備えたようなイベントができれば楽しい。

高橋 余談になりますが、飛鳥は日本郵船の船ですよ。商工会議所の資料によれば、明治維新後、最初に酒田港に入ってきた蒸気船というのは郵便汽船三菱の船だったそうです。郵便汽船三菱というのは、大河ドラマ「龍馬が行く」で出てきた岩崎弥太郎さんが作った会社です。郵便汽船三菱は、今の日本郵船の母体の一つです。ですので、日本郵船にその歴史をもって掛け合っ、飛鳥に酒田港に現状より長く滞在してもらえるように頼むなど、そのような方法もあるのかと思います。

小山 私も飛鳥に乗ってみたいと思っている口です。私が子どもの頃は、大浜海岸で海水浴をしたあと、そこから船に乗って新井田川を渡り、本港まで行った記憶があります。年齢がバレてしまいますね。子どものころは、港は本当に身近な場所でした。いつの頃からか、子どもは来るな、女は来るなという目に見えない壁ができたように感じます。もちろん仕事場ですから、女子どもがいては危険もあるでしょう。仕方の無い面もあると思います。ですが、私が子どもの頃の海の近さを、今の子どもたちにも味わってもらいたいというのが私の希望です。もっと海に触ってほしい、船に乗ってほしい。みなとオアシスマつりでは、加茂水産高校の協力で、子どもが生きている海の生き物に触れることのできる「タッチプール」を企画しました。子どもたちは大喜びで、そこから離れなくなってしまう。その姿を見て、もっと海と触れ合える場所が酒田にあればいいと考えております。

私は、酒田港を子どもにこそ印象づけたい。その子が社会人になったとき、山形県には酒田港があった、あそこを利用できないかと思ってほしい。

高橋 先ほど小山さんのお話にありましたが、山形県内でも港町酒田の認識があまり高くない。他県も、内陸に住む方々の港への認識というのはまだまだ高めていく余地があると思うんです。特に若い人、子どもたちに港を知ってほしい。また、観光誘致のターゲットを親子として考えますと、父母が行くところに子どもがついていきたがるとは限りませんが、子どもが行くところは絶対に父兄がついてくる。子どもの海への関心を高めることによって、幅広い年代に港を周知することができますし、訪れる方も増えることでしょう。

白旗 我々酒田青年会議所としてのメイン事業は、酒田祭りです。毎年携わらせていただいています。先ほど昆さんの講演の中でもありました、立山鉾。あれは高さが20mあります。4年前に青年会議所で復元し、それ以来祭りのメインの山車として毎年運行しています。酒田が最も栄えた江戸末期から明治初めまでの酒田祭りでは、毎年あの位の大きさの立山鉾が運行されていた。時代が下るにつれ、電線などが邪魔となり、約100年前から運行されなくなってしまった。それを復元しました。酒田祭りの立山鉾も、京都の影響を受けていますが、酒田独自の文化でもあります。この独自の物を、我々青年の手でどれだけ誇りを持てるものにするのか。そこが酒田の活性化へつながるポイントだと思っています。子どもたちにも伝えていかなければならない。先ほど高橋先生が海洋センターのお話をしましたが、実は立山鉾は海洋センターの倉庫を借りて製作しています。製作するだけの場となっていてはもったいないので、立山鉾を展示し、みなさんに見ただけのような施設が海洋センターにできればいいと思っています。いずれにせよ、港がもたらした、人との交流で生まれた文化を如何に次世代に伝えていくか。我々が実行しなければなりません。酒田祭りを通じて、行ってみたいと考えています。以上です。

高橋 港本来の目的である物流だけではなく、先ほど昆先生のお話にもあった、日本海沿岸同士の文化の交流を、しっかりと認識して継承していかなければなりません。それが自分たちの町への誇りにもなり、他地区との心の交流にもつながる。青年会議所さんにはがんばっていただきたいと思っています。今年の酒田祭りの次の日たまたま日和山公園へ寄ったところ、北前船レプリカの横に立山鉾があり、それが昔の風情を出していて、とてもいい光景だった。なかなか普段立山鉾をおいておくのは難しいかもしれませんが・・・、北前船と山鉾、これが並んだインパクトはすごい。そういうインパクトのある試みが必要なのかなと思う。

阿部 東北の日本海側というのは、海岸線が南北に伸びています。夕日が海に向かってまっすぐに沈むんですね。ここに暮らす私たちにとっては当たり前の光景です。人によっては夕日の町なんていうとあまりいいイメージを抱かないかもしれない。ですが、私たちにとっては当然でも、太平洋側や内陸に住む人たちには新鮮な光景です。アイデアを出しながら、各地で日本海側の港をピーアールするさまざまな取り組みが行われています。日本海にぎわい・交流海道ネットワーク会員としても、事例を共有させてもらいながら積極的に取り組んでいきたいと考えております。私たちでは気がつかない港町の良さ、風情があるはずですよ。それをみなさんと一緒に発掘していきたい。それからもう一つ、観光にストーリー、流れをもたせたい。例えばなぜ山居倉庫があるのか。あの立派な建物は、舟運と海運の交流地点だからこそできたもの。その背景を知らなければあの建物を見ても「お金持ちがいたのかな」程度にしか思わない。日和山の名前の由来も

日和山だけ見ているとはよく分からない。私たち行政自身の反省として、拠点ごとの整備はあっても、それらをつなぐことができなかった。酒田の歴史を一堂に集めた、酒田の各拠点のつながりを示す資料館などが必要だと思っています。それから、これからの港は、他の港と連携して機能強化をしていかなければならない。現在も、リサイクルポート酒田として、能代や姫川と連携して活動しています。他の港とは、ライバルであると同時に、太平洋側の港に対して対抗していくための同士だと思っています。これまで以上に連携を密にして、がんばっていきましょう。

高橋 日本海側の特徴は夕日が海に沈んでいくことです。太平洋側は朝日。日本全体を眺めたとき、日本海側は夕日がシンボルとなり、太平洋側は朝日がシンボルとなる。それを心理的な軸に、競合し連携して、すべての港が伸びていくことになれば望ましいと思います。今日は日本海を有する港の皆さん、北は北海道から南は佐賀まで、各地からお越しいただいています。物流や経済の連携はもちろんですが、観光や人間の往来の面でも、日本海側で交流しながらお互いの切磋琢磨し、首都圏や太平洋側へ日本海側の魅力を発信していくことが望ましいと思います。

では、まだ少し時間がありますので、パネリストのみなさんから一言いただきたいと思っています。

佐藤 先ほどカヤックの話をしていただきました。カヤックだけに限ったことではないんですが、実は私はトライアスロンの実行委員会もさせていただいています。トライアスロンのコースに観客がいると、大会が華やかになると考えています。本港地区はみなとオアシス空間ですので、美しく整備されているうえに、日和山も近く景観が良い。それで、港を泳げたら良いという話が出たり消えたりを繰り返しています。考えれば考えるほど、港では泳げないという結論に至るんですが、トライアスロンにしろカヤックにしろ、私たちの思考の片隅には、市街地からほど近い港でやってみたいという憧れがあります。理想で勝手なことばかり言う立場ではありますが、今後も積極的に言葉を発して、港に関わっていきたいと思っています。

小山 少し話題が離れますが、私は本業で建築に携わっております。酒田には歴史的建造物が点在しています。それらが観光ルートとしてつながっていないことが残念です。港づくりを町づくり全体としてとらえて、港町酒田の昔のにぎわいを取り戻す取り組みをしていきたいと考えております。

高橋 先日青森県佐浦を訪問しました。あまり大きな町ではありませんが、物語性をもって歩ける町づくりが行われています。そのように、我々が見習うことのできる土地が全国各地にあると思います。

白旗 これから開催する、海に関連する事業をピーアールさせていただきます。8月18日、19日に子ども向けの飛島での体験事業を開催します。小学校3年生から中学校程度の児童が対象です。参加は子どもさんのみとなります。保護者は付き添えません。お子さんの自立心を養うためにも、夏休みの思い出づくりとしても、みなさんのお子様からご参会いただければと思います。

高橋 阿部市長は特にございませんか？それではこれで時間となりましたので終わらせていただきますが、せっかくの機会ですので、ご質問のある方举手願います。

参加者 (酒田港湾事務所吉見所長) 事例発表に対しての質問で恐縮です。お話に出たシティーハーフマラソンに自分も参加したいのですが、具体的にはどのようなコースがあるのでしょうか。子どもが参加できるコースもありますか？ また、スライドで「酒田舞娘とのハイタッチ」という表記があったのですが、どのように実施するのですか。

佐藤 今回シティーハーフマラソンのコースをくんだのは、長年一緒に活動しているボランティアのコースディレクターです。最初はリサイクルポートから山居倉庫まで走るコースを考えましたが、そうすると酒田市街地ほぼ全域交通規制が必要になって現実的でなかった。その状況でもコースディレクターが絶対に外せないと主張したのが、舞娘とのハイタッチでした。舞娘さんが普段いる相馬楼という建物は、すごく細い、昔ながらの辻道に面しています。その相馬楼の前で舞娘さんに立って待ってもらい、ランナーに舞娘さんめがけて走ってもらう。そうすれば、途中の目標を持って走る分、市内を早く抜けるだろうという狙いもあります。警察から「なんでこの細い道を通るんですか」と言われながらも、ここだけは譲れないと、コースは高校生以上向けにはハーフ、10km、5kmの部門があります。中学生向けに3km、小学生向けに1kmとコースを用意しておりますので、ここにいらっしゃる方どなたでも参加していただけます。奮ってご参加ください。

あと、もう1点。先ほど説明しましたアウトドアスクールですが、子どもの写真がチラシに多く載っているのが、家族向けのように思われてしまいがちですが、大人一りの参加、大人同士の参加でも構いません。ぜひどうぞおいでください。

高橋 今日のパネリストのみなさん本当にありがとうございました。